



第2章 石狩市の概況

第 2 章 石狩市の概況

1 現状と課題

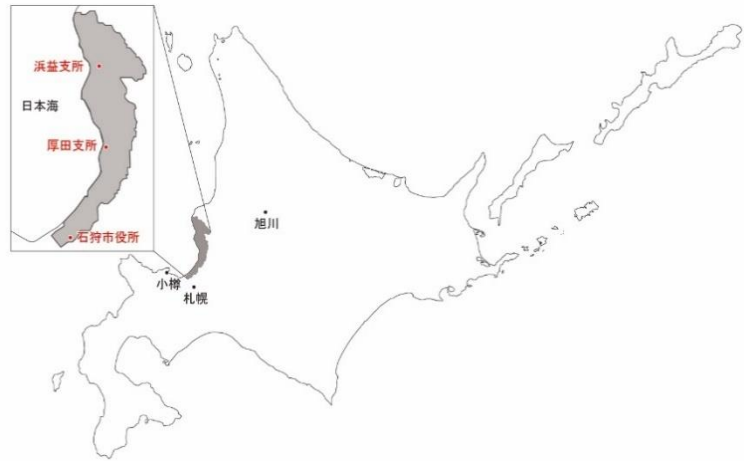
(1) 石狩市の現状

① 位置・地勢・人口

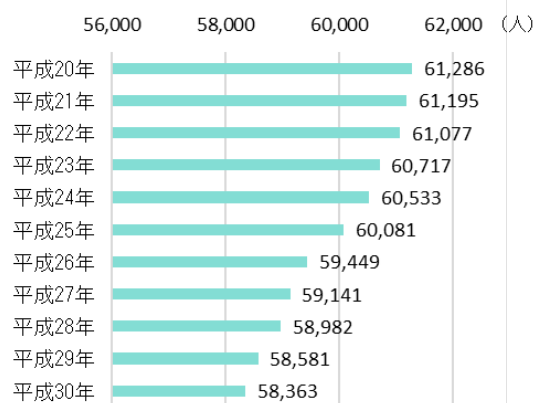
札幌市の北側に隣接し、西一帯に広がる石狩湾に沿って東西に約 29 km、南北に約 67 km、総面積は約 720 km²となっています。

人口は、花川地区の宅地造成や石狩湾新港地域の工業団地の開発とともに昭和 40（1965）年後半から平成の始めにかけて急増しましたが、現在は緩やかに減少傾向となっており、令和 3（2021）年 1 月末現在は 58,287 人となっています。

直近 5 年間の転入出を見ると、大きな差はみられず、わずかに転入の増加が見受けられました。これは、平成 27（2015）年に策定した「石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、定住・移住に関する施策を展開し、人口減少対策に努めてきた影響もあると考えられます。



【石狩市の人口推移】



出典：石狩市各種統計石狩市の人口（住民基本台帳等）を基に作成

【石狩市の直近 5 年間の転入出数】

	転入（人）	転出（人）
平成27年	2,450	2,307
平成28年	2,001	1,968
平成29年	2,127	2,209
平成30年	2,288	2,145
令和元年	2,394	2,052
平均	2,252	2,136

出典：石狩市各種統計石狩市の人口／移動事由人口動態を基に作成

② 産業

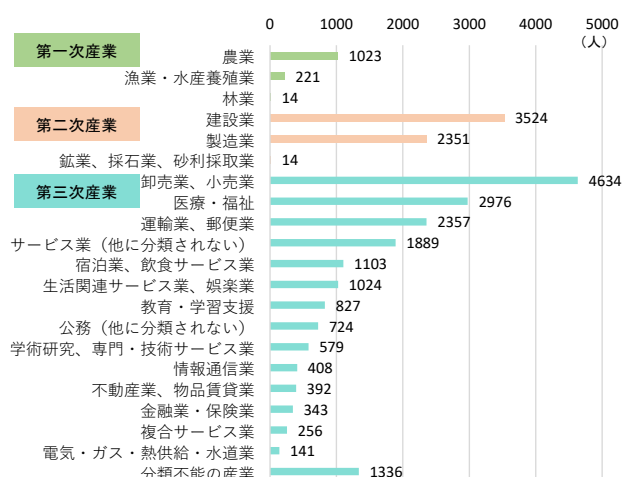
産業別就業人口は、昭和 40（1965）年代までは豊かな自然資源を利用した農水産業等の第一次産業が中心でしたが、その後、宅地造成や石狩湾新港地域の開発に伴い、第二・第三次産業が増加しています。業種別では、第三次産業の卸売・小売業が最も多く、次いで建設業、医療・福祉、運輸業、郵便業となっています。平成 27（2015）年版の「石狩市の地域経済循環分析」

(環境省、株式会社価値総合研究所)によると、産業別付加価値額※では、運輸・郵便業が最も付加価値額を稼いでおり、次いで建設業、卸売業、保健衛生・社会事業となっています。

第一次産業の農業では、主に稲、馬鈴薯、小麦などが生産されています。市内には生産者のわかる地元野菜を販売する直売所があり、季節ごとの旬の農産物などが出回ります。

漁業は、約67kmに及ぶ海岸線を有し、基盤産業として長い間営まれ、にしんやほたて貝、さけなどが水揚げされます。石狩・厚田・浜益の朝市には、遠方からも多くの人々が足を運び、賑わいを見せています。

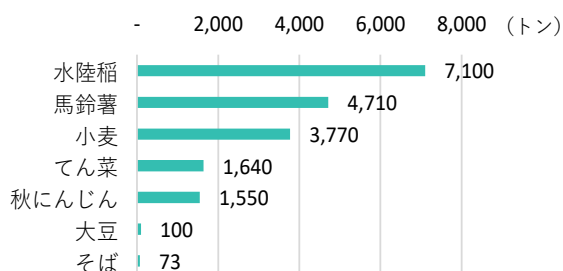
【石狩市の産業別就業人口】



出典：平成 27 年国勢調査結果 (総務省統計局) を基に作成

【平成 29 (2017) 年

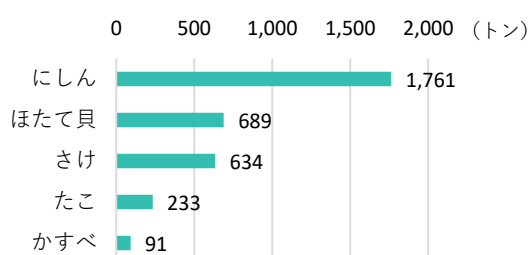
主な農作物単位面積(10ha)当たり収穫量】



出典：平作物統計調査 (農林水産省) を基に作成

【平成 30 (2018) 年

主要魚種別漁業生産量 (上位 5 位)】



出典：石狩湾漁業協同組合業務報告書を基に作成

③ 交通

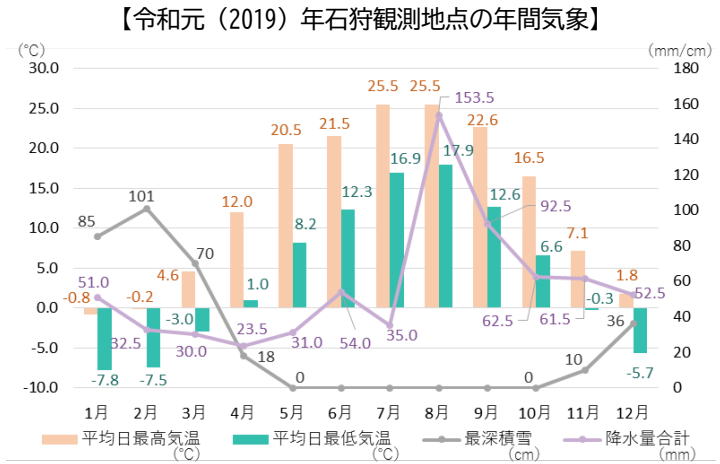
市内の交通手段としては、主に自家用車の割合が高く、その他、路線バスや高速乗合バスが挙げられます。市内地方部では、公共交通空白地もあることから有償輸送のデマンドバスがありますが、今後は人口減少・少子高齢化の進行に伴い、広域移動を支える公共交通の維持や空白地への移動手段の確保が必要となります。また、就業者総数が 20,000 人を超える石狩湾新港地域は、札幌市からの就労者が多いですが、路線バスの便数が少なく札幌市とのアクセス性が低い状況であり、広域な石狩湾新港地域への効率的な移動手段の確保も必要です。

※ 付加価値額：売上から原材料を除いた売上総利益

④ 自然環境

ア 気候

日本海側気候に属しますが、北海道の中でも比較的温暖で、降水量も少ない地域です。また、気温は夏の平均最高気温が30℃以下、冬の平均最低気温は-10℃までいかない地域です。しかし、冬は石狩湾低気圧の影響により、内陸は晴れていても海岸線では吹雪くこともあります。

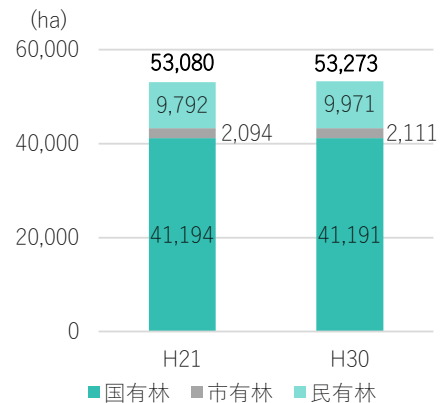


出典：気象庁

イ 森林

総面積 72,242ha のうち森林面積が平成 30（2018）年度で 53,273ha と、市のおよそ 74%が森林です。森林に占める市有林の割合は約 4 %ですが、国有林の割合は約 77%と広大な面積を有しています。保安林として、花川・生振地区や海岸砂丘背後の大部分が防風保安林に、厚田区・浜益区では、水源涵養保安林や土砂崩壊防備保安林、水害防備保安林等に指定されています。また、平成 23（2011）年度より「石狩川歴史の森植樹祭」、「あつたふるさとの森植樹会」が開催され、市民参加による植樹が行われています。

【石狩市森林（市有林）面積の推移】



出典：北海道林業統計

ウ 河川、海域

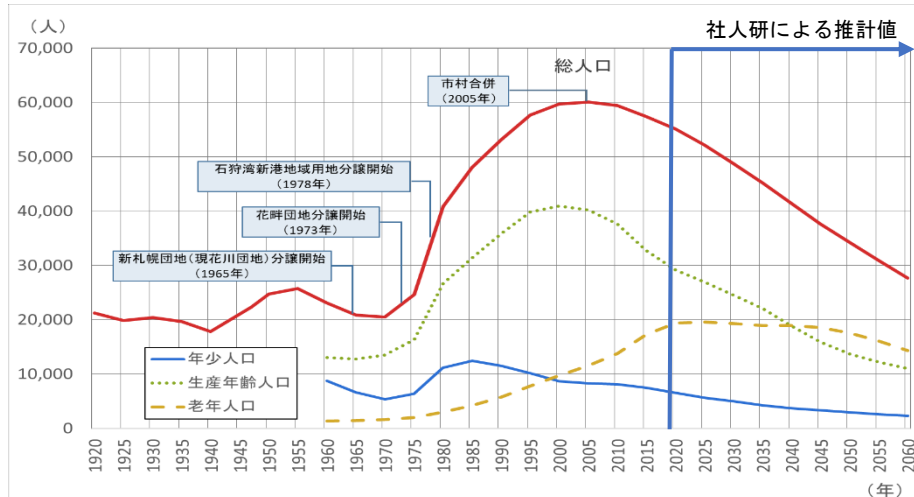
主な水域は、石狩海岸、石狩川をはじめとする豊かな水辺環境であり、砂丘海岸である石狩浜は、海浜特有の自然環境が連続的に残る全国的にも希少な自然海岸として、平成元（1989）年策定の北海道自然環境保全指針で「すぐれた自然地域」に指定されました。北は厚田区から南は小樽市銭函まで約 25 kmの砂浜海岸には、ハマナス、テンキグサ（ハマニンニク）、コウボウムギなどが生息する砂丘草原と天然性カシワ林が良好な状態で残り、環境省指定の特定植物群落となっています。特に石狩川河口部に位置する「はまなすの丘公園」にはハマナスやハマボウフウなどの群生地となっているほか、野鳥の貴重な生息地・中継地であり、都市公園法及び石狩市海浜植物等保護条例（公園内の一部）により、海浜生態系が保全されています。また、日本海（石狩浜）につながり、全国第2位の流域面積である一級河川の石狩川は、札幌市をはじめ 46 市町村を流れ、本市はその最下流部に位置します。その他にも、本市には茨戸川や厚田川、浜益川などがあります。

(2) 石狩市の課題

① 人口減少・少子高齢化

人口減少・少子高齢化、大都市への人口流出などにより、地域コミュニティの維持・存続が課題となっています。本市の総人口のピークは平成 17（2005）年の 3 市町村合併時に約 60,000 人でしたが、その後は減少が続いており、将来推計では、令和 42（2060）年は約 30,000 人と見込まれています。「このまちに住み続けたい」「このまちに住みたい」と思える魅力あるまちづくりが必要です。

【年齢3区分別人口の推移】



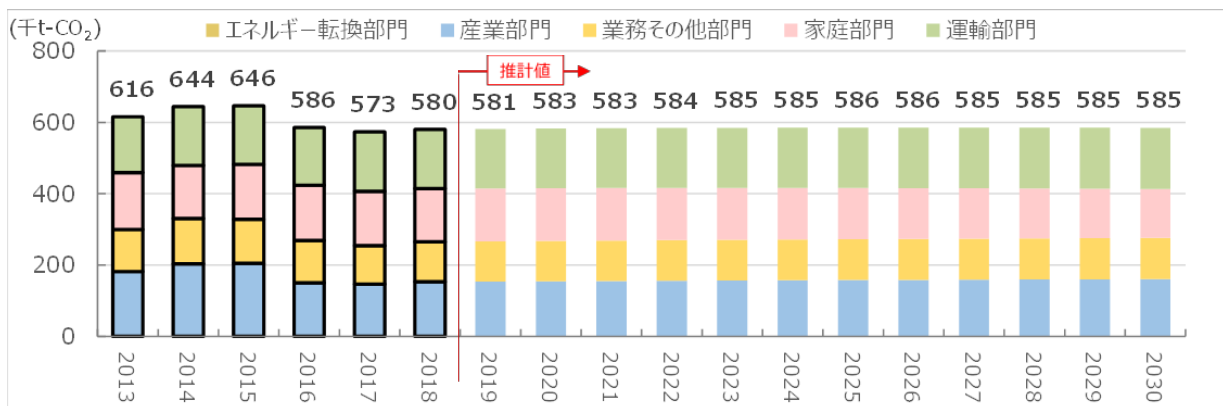
出典：第2期石狩市まち・ひと・しごと創生総合戦略

② 脱炭素化に向けた取り組み

本市は、令和 32（2050）年までに CO₂排出量実質ゼロの「ゼロカーボンシティ」を目指しており、脱炭素社会の形成に向け、今後も継続的に各種施策を展開する必要があります。

平成 17（2005）年に「石狩市地球温暖化対策推進計画（区域施策編）」を策定しており、下図の市内における温室効果ガス排出量の推移と将来推計では、基準となる平成 25（2013）年度の排出量と直近の平成 30（2018）年度の排出量を比較すると 5.8%の削減、また将来推計の結果、令和 12（2030）年度の排出量は、ほぼ横ばいと見込まれています。市、事業者そして市民一人ひとりの意識と行動が求められています。

【温室効果ガス排出量の推移と 2030 年度までの将来推計】



出典：石狩市地球温暖化対策推進計画

③ 災害に強いエリア形成

平成 30（2018）年、北海道胆振東部地震の際、市内全域が停電になり、私たちの生活や経済活動に大きな支障をきたしたことは記憶に新しく、道内最大の産業拠点である石狩湾新港地域では物流がストップしました。さらに、厚田区・浜益区の地方部では復旧するまでに長い時間がかかったことなどを教訓に、今後の対策として、電力などのライフラインの確保は、市民の生活や事業者の活動の維持のためにも重要な課題です。

④ 地域資源を活用した地域振興

「第 5 期石狩市総合計画」では、戦略目標の 1 つとして、「いしかりの資源からモノやしごとを創り出す」と謳っており、豊富な地域資源を活用し、いかにして効果的かつ効率的な地域振興策を進めていくかが今後の課題です。本市は再生可能エネルギーのポテンシャルが高いとされている地域であり、再生可能エネルギーは CO₂を排出しないクリーンエネルギーとして、CO₂の削減に効果があるとともに、再生可能エネルギー関連の産業やそれにとまなう雇用など、地域活性化に寄与する取り組みを推進していく必要があります。

⑤ 地域交通サービスの維持、運輸部門の CO₂削減

現在、市内の交通手段としては主に自家用車であり、公共交通としては民間運営のバスが主流となっています。しかしながら、公共交通の空白地域も存在しており、今後は人口減少や、さらなる高齢化社会となる将来を見据えての地域交通サービスの維持・拡大が課題です。公共交通の利用し易い環境づくりのため、サービス水準やネットワークの最適化を進める必要があると同時に、公共交通の脱炭素化に向け、次世代車両の導入の検討を進めることが必要です。

⑥ 豊かな自然の維持

本市は海・山・川など豊かな自然資源に恵まれておりますが、地球温暖化や外来種、また私たち人間の活動や様々な事業活動の影響が重なることで、生物多様性の損失が懸念されています。自然資源や生物多様性の維持、保全のため、基礎データの収集・蓄積、そしてそれらを活用しながら地域の特性に合った方策が必要です。

⑦ 地域に愛着を持つ機運の醸成

「第 5 期石狩市総合計画」では、戦略目標の 1 つとして、「いしかりが誇る人や文化を育てる」と謳っており、市民一人ひとりが健康に生涯を通じていきいきと暮らすため、誇りや愛着を醸成するまちを目指すとされています。このまちに住み続けたい、住んでみたいと思えるようなまちづくりを進めるためには、環境・経済・社会それぞれの側面で、市・事業者そして市民が、地域の課題を共有し、ともに考え、取り組むことが求められます。地域に愛着を持ち、地域をよくしたいと思える人材や新しい文化を築き上げ、持続可能な地域として将来へ継承することが必要です。

2 地域特性

(1) 再生可能エネルギーのポテンシャル

北海道や環境省、NEDO（国立研究法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）等が公開している情報によると、本市において再生可能エネルギーのポテンシャルが高いとされているのは「風力発電」、「太陽光発電」、「木質系バイオマス」となっています。特に「風力発電」は全国と比べても高いとされ、令和3（2021）年3月末時点で、市内には13基の大型風力発電が設置されています。

しかしながら、再生可能エネルギーの電力を地域で活用する仕組みが整っていないことや、再生可能エネルギー発電の開発主体の多くが道外資本であり、開発に伴う地域内での資金循環が担保されていないことから、本市は北海道電力と互いに連携・協力して、地域内において資金循環を図る仕組みの構築や再生可能エネルギーを活用した地域の低炭素化など、持続可能な地域社会の実現に向けた地域密着型のビジネス開発の検討などを進めていくこととしています。

(2) 石狩湾新港地域の優位性

道都・札幌市に隣接し、平成6（1994）年に国際貿易港となった「石狩湾新港」の後背地の工業流通団地「石狩湾新港地域」は、約3,000haの面積を有する札幌市に最も近い一大産業拠点です。立地企業数は約750社、操業企業数は約630社、就業者数約20,000人という全国有数の企業集積でありながら、面積の約3分の1が緑地・公園となっています。また、道内で唯一のLNG[※]輸入拠点や火力発電所があり、太陽光や風力、バイオマス発電など、今後エネルギーの供給拠点として発展が期待されているエリアです。そのような中、本市は、国の水素社会実現に向けた政策を踏まえ、石狩湾新港地域の優位性を活かし、再生可能エネルギーを活用した水素の製造及び貯蔵、広域供給の拠点化、水素関連産業の石狩湾新港地域への集積を目指した「石狩市水素戦略構想」を策定しています。



(3) 豊かな地域資源

海・山・川など豊かな自然が多いまちであり、P11の「石狩市の現状」でも示したとおり、農水産分野においては、札幌市に隣接する優位性を活かした都市近郊型農業の推進を図り、石狩地区、厚田区、浜益区それぞれの地域特性を活かした多岐にわたる農作物を生産しています。また、石狩地区は、北海道内最大の流量を持つ石狩川河口が位置し、淡水の影響域も含む多様な水産生物を有する水域で、厚田区、浜益区ではホタテの養殖漁業が盛んです。今後、これらの産業が持

※ LNG：液化天然ガス

続的に発展するために、大都市に隣接したメリットを活かし、安心・安全・新鮮な地場製品の生産と提供による「石狩ブランド」の確立を目指しています。また、石狩湾新港地域の食料品製造業と連携した六次産業化等により、稼ぐ力の強化、生産者と消費者を繋ぐ取り組みなど、地域の農水産業の付加価値額の増大や雇用の拡大に繋げるための各種事業を展開しています。

また、観光資源としては、日本海に面した魅力あふれる風景や、様々な体験ができる観光資源が存在しており、平成 30（2018）年春には道の駅石狩「あいろーど厚田」がオープンし、本市の自然・歴史・産業を発信する拠点として、今後期待が高まるエリアです。

これらの地域資源を活用して、特産品の販売や道外・海外への販路拡大、観光客誘致など、地域資源を多角的に活用し、地域資源を活かした魅力づくりによる交流人口の増加、経済活動の活性化を目指し、持続可能なまちとして発展するための各種取り組みを図っています。



コラム

石狩市の誕生はいつ？

今からおよそ 6000 年前、現在の石狩市の大部分は海の底でした。温暖な気候によって海水面が上昇していたためです。海は現在の札幌や江別にまで広がっていましたが、その後、縄文人が活動を始め、以後、砂丘は 4000 年間にわたって古代人の生活の場となりました。縄文時代の遺跡で発見された家の跡からは、サケの骨が発見されており、縄文時代からサケ漁が行われていたことがわかります。また、平野部の遺跡は、石狩川に面した砂丘上に集中しており、古代人たちは石狩川と深いかわりをもって生活していたことがわかります。

古い歴史・文化を持つ「石狩市」。古代から受け継がれてきたこの地を、将来にわたり継承するためには、今、ここに住んでいる私たちが、その価値を再確認し、よりよいまちになるように考え、行動する必要があります。

石狩誕生